

## マタイの福音書 第6章 22～23節

「からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るい。もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。」

待ちに待った桜の季節が到来した。この数日で満開となった。街中で、土手伝いに見事な桜が咲き誇っている。しかし、今年もなんとなくしみりとした咲き方のように見える。感染症が終息しないなかでの開花である。用心しながらの花見である。行き交う人々も間隔を開け、一方通行に心掛ける。感染症に加え、さらにここを暗くする出来事が東欧で勃発した。街々は破壊され、数えきれないほどの人命が奪われている。闘いは続いている。犠牲者の数はさらに増える。

桜並木を通るが、花が暗く沈んでいるように見える。曇天だからではないと思う。見ている者のところが遠くで戦火に怯え、命をつなごうと必死に生きようとする人々を思う度に重く暗いところのうちとなるからだ。

いつになったら青空の下、平安なときが来るのだろうか。いつになったら青空の下、見渡す限りの麦畑となる日がくるのだろうか。いつになったらうちが光で満たされるだろうか。一刻も早く光が届きますように。

2022年3月19日